（解答上の注意）解答は、すべて解答用紙に記入すること。

一　次は、漢字仮名交じりの書の作品を制作する際、他人の言葉や他人の詩文などを使う時に注意することがらを述べたものである。

（1）空欄①から④に適語を補い、文章を完成させなさい。（補う適語は全て漢字二文字である。）

（　①　）権は、（　①　）物に対してその（　①　）者が独占的に支配して（　②　）を受ける権利のことです。これは、すべての（　①　）物には（　①　）権があり、法律によって ⒶⒶ一定期間、（　①　）者の権利が守られているということです。
したがって、ふだんから（　③　）の制作などに際して、他の人が発表した詩文などを素材にする場合、その（　④　）名や（　③　）名などを明記するなどして（　①　）権に十分配慮する必要があります。
また、私たちの制作した（　③　）も、大事な（　①　）物の一つです。

（2）傍線部 ⒶⒶの「一定期間」とは、日本の場合、原則としてどのくらいの期間を指しているか答えなさい。

二　次の（1）から（5）の作品名と作者とされている人物名を漢字で答えなさい。作者と思われる人物が明らかになっていない場合は解答欄に斜線を入れなさい。また、（6）以降の作品について、問いに答えなさい。

（1）

（2）

（3）

（4）

（5）

（6）

この作品は唐の時代に活躍した作者のものである。左の表は唐の四大家の生没年を表したものであるが、（6）の作者は③とほぼ同じ年齢である。空欄①から④にあてはまる唐の四大家をそれぞれ漢字で答えなさい。

（7）

①　この作品は文字の配列が通常の場合と異なっている。このような配列で作成された印を何というか。解答欄の（　　）に入る文字を漢字二文字で答えなさい。

②　刻されている四文字を読み方の通りに漢字で答えなさい。

③　この作品は、辺の一部をわざと欠いて古さ、趣を出している。印刀を用いて行うこの技法を何というか。漢字二文字で答えなさい。

三　次の仮名作品について、問いに答えなさい。

（1）作品名を漢字で答えなさい。

（2）作品中で変体仮名は十箇所使用されている。（同じ字を使用しているところがあるため、使用されている変体仮名は全部で九文字である。）それぞれ元になる親字を作品に使用されている順に答えなさい。

（3）傍線部①のように文字と文字を続けて書くことを何というか。漢字二文字で答えなさい。

（4）この作品の作者と伝えられている人物は、平安時代中期の「三跡」に数えられている。この人物を含めた三人をそれぞれ漢字で答えなさい。

四　次の用具・用材に関する問いに答えなさい。

（1）紙の規格について空欄①から⑦に入る文字を漢字で答えなさい。

（2）固形墨は、煤と膠を練り合わせ、香料を入れて固めたものである。大きく二種類に分けられるが、それぞれ何というか、解答欄の（　　）に入る文字を漢字二文字で答えなさい。

（3）自然石を加工して作る硯の表面には、微細な突起があり、これによって墨が磨り下ろされる。この微細な突起のことを何というか、漢字二文字で答えなさい。

五　次の拓本に関する問いに答えなさい。

石・木・金属などに刻されている文字や文様などを、紙を当てて墨で写し採ったものを拓本という。中国で始まった複写法で、古来、書の名品を鑑賞したり、臨書したりするために行われてきた。

（1）管理されている石碑の拓本を採ろうとした時、用具等の準備の前にまずしておかなければならないことは何か、答えなさい。

（2）拓本には大きく分けて二通りの方法がある。解答欄の（　　）に入る文字を漢字二文字で答えなさい。

（3）次の『始平公造像記』のように文字の字画を残し、その周辺を刻む技法を何というか、漢字二文字で答えなさい。

（4）次の図は、拓本を採る際に使用する用具の作り方を説明したものである。この用具を何というか、ひらがなで答えなさい。

六　次の作品『書譜』について、問いに答えなさい。

（1）作者名を漢字で答えなさい。

（2）傍線部①の書き下し文が「況んや乃ち神仙に仮託し家範を崇ぶを恥じたるをや」となるよう訓点を施しなさい。（送り仮名は不要）

（3）作者である（1）が書法について最も規範とした人物を漢字で答えなさい。

（4）『書譜』は中国の書論であるが、日本最古の書論と考えられているものは真済が編んだ『遍照発揮性霊集』である。真済はある人物の弟子であるが、それは誰か。次の①から⑥のうちから記号で答えなさい。

①西行　②最澄　③橘逸勢　④空海　⑤一休宗純　⑥藤原定家

（実技検査上の注意）　受験番号は鉛筆で作品の左下に書くこと。作品には体裁よく落款を入れること。ただし名前の部分は「〇〇」とする。押印はしない。提出の際、作品は折り曲げないこと。

七　次の枠内を別紙祝儀袋に楷書と行書で体裁よく書きなさい。（小筆を使用すること）

御祝儀　有限会社つばさホール

八　次の俳句を半切二分の一の用紙に、「鄭文公下碑」を基にした書風で漢字仮名交じりの書として体裁よく書きなさい。（用紙の縦・横、構成は自由。ただし漢字と仮名等の変換は認めない）

ポストはそこに旅の月夜で　山頭火の句〇〇かく

九　次の図版資料から王羲之と同年代の古典を一点選び、半紙に臨書しなさい。（縦長二行書きのこと）

十　次の句を隷書（八分隷）で半切四分の一の紙に一行で書きなさい。（用紙の縦・横は自由。旧字体の使用可）

空結同心草

十一　次の「本阿弥切」を半紙に臨書しなさい。ただし連綿はそのままに、五行の散らし書きで表現すること。（用紙の縦・横・構成は自由）